

平成27年7月 データから見た業界の動き

■ 概 況

消費税率改定から1年以上が経過したが、電気代や食料品をはじめとする物価上昇を起因とした消費心理の減退が上乘せされたままにあり全体的に景気の回復感はない。

しかし、円安が追い風となり中国等からの訪日旅行者によるインバウンド消費が宿泊業を中心に拡大している。

また、お盆前の前倒し受注により製造業の一部は繁忙であるが、石油価格の低下から経費削減に繋がれたいとも円安による原材料の高騰や人件費の増加等、収益確保には結びつかず、厳しい経営状況が続いている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製 造 業

食料品（水産物加工）	生食材や新商品は好調だが、ギフト関係が低調のため全体の売上は前年同月比93%。
食料品（洋菓子製造）	台湾輸出が好調だったが、自社製品やOEMが低迷したため売上は前年同月比97%。お中元商戦は低調。
食料品（菓子）	7月の売上は前年対比で増加。ボイラーに使用する灯油価格が、昨年より安値なため経費削減に繋がっている一方、原材料の高騰が続き、厳しい状況に変わりはない。
繊維・同製品（織物）	ホテル、マンション仕様の高級インテリアや裏地は順調に推移しているが、低価格品は厳しい。
繊維・同製品（アパレル）	下請け加工は単価が上がらず厳しいが、製造販売や委託加工は受注量が増加している。
窯業・土石（砂利）	昨年度から公共工事が減少している。
窯業・土石（山碎石）	製品出荷量は前年同月比10%以上の減少。さらに諸資材の高騰により、利益率は下降気味のため設備投資が出来ない。
一般機器①	一部の業種では景気回復している面もあるが、全体では厳しい状況が続いている。お盆前の前倒し発注等で売上が増加傾向にあるが、円安により製造原価が上がり収益状況が悪化。
電気機器①	受注の変動が激しく短納期及び安価なコストでの受注のため厳しい状況が続いている。原材料の調達や資金繰り等も含め課題が多い。
電気機器②	お盆前の駆け込み受注が増加。収益や取引条件並びに資金繰りなど昨年より改善傾向にある。
宝飾（研磨）	秋の商戦に向けた材料主体の展示会が2日間開催され、来場者(105%)、売上(138%)ともに前年を上回った。特に、県外のバイヤーが前年対比145%と伸長した。

● 非製造業

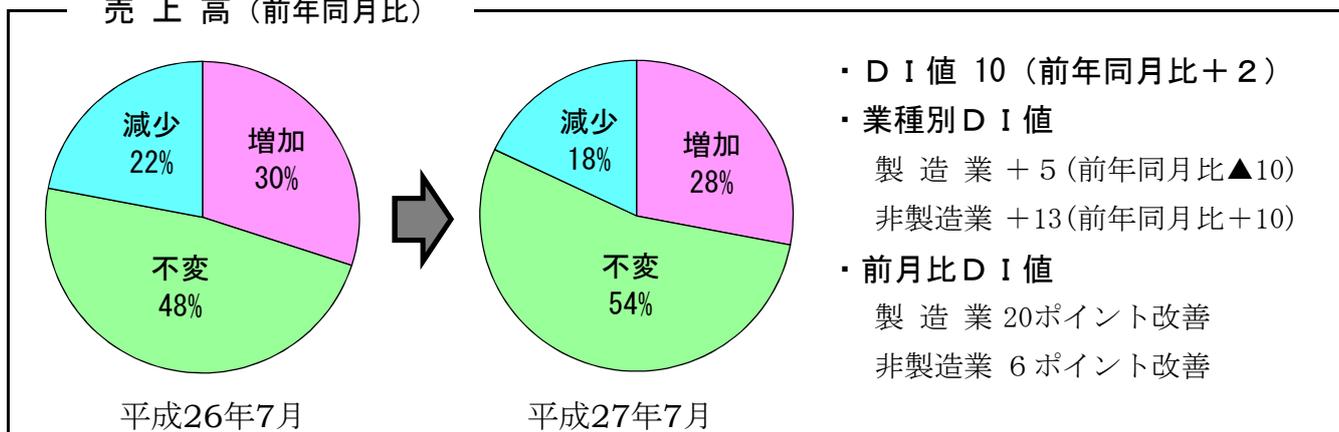
卸売（紙製品）	中国への輸出価格が平均20%位下落しているため、国内古紙価格への波及を懸念。
卸売（ジュエリー）	国内流通は低迷。
小売（青果）	7月は気温の上昇に伴い野菜等は入荷量が増加したが、果実等は猛暑により減少している。
小売（食肉）	国内の豚肉、牛肉の相場が更に値上がりしているため、販売価格を多少値上げしても追いつかない状況にある。
小売（電機製品）	7月度は地域店・量販店ともに売上が前年を上回った。
小売（石油）	ギリシャや中国の景気悪化やイランの経済制裁解除等により原油価格が下落傾向にあり卸売価格も値下げ傾向にある。
商店街①	イベントによる賑わいはあるが、日中猛暑が続くため来街者は減少している。
商店街②	飲食店を中心に中国人観光客が大幅に増加しているが、買い物はしていない様子。
不動産取引	東京からの物件買い取りの依頼が多い。物件の定価販売が少なく値引き交渉の依頼が非常に多い。
宿泊業（甲府）	外国人宿泊客の割合が増加傾向にある。また、スポーツ大会等の参加人数も前年比3割増となり売上に繋がった。夏休みに入り週末は宿泊予約が取りにくい状況が続いている。
美容業	物価の値上がりに伴い来店客数や客単価が減少している。
廃棄物処理（産廃系）	廃棄物処理センターの搬入に関して一定期間だが新規搬入車輛の受入（許可）制限が設けられた。
警備業	7月に入り徐々に公共工事の発注が始まった。夏祭り等のイベント開催が多くなり警備員不足等による労務単価は上昇しているにもかかわらず低価格競争となっており受注に至らず売上が伸び悩んだ組合員企業もあった。
建設業（総合）	7月の県内公共工事動向は、前年同月、件数、請負金額ともに20%減少。
建設業（型枠）	7月に入り工事物件も出始めたが、前年程までには至っていない。
建設業（鉄構）	ある程度の仕事量は確保し、稼働率も高い。県内の公共物件も徐々に増え、7月の見積り発行件数は前月度に比べ倍増。
設備工事（電気工事）	組合企業の従業員が高齢化のため、人材育成をしたいが人材が集まらない。
設備工事（管設備）	アパート等賃貸物件の増加により売上は、前年同月比23.4%増。円安による原材料高や技術者の不足等による人件費の増加により販売価格は上昇傾向にある。
運輸（トラック）	天候の影響により今年度の青果物の出荷量は、前年対比減少しているため青果物輸送を主軸としている事業者は収益確保に苦慮している。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

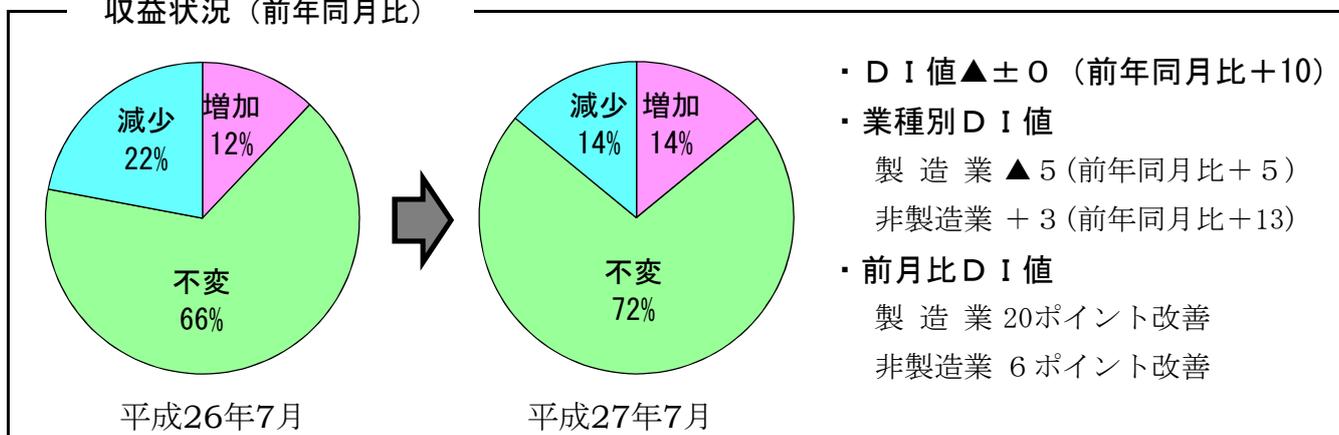
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2014/7	2015/6	2015/7	2014/7	2015/6	2015/7	2014/7	2015/6	2015/7
売 上 高	15	-15	5	3	7	13	8	-2	10
収 益 状 況	-10	-25	-5	-10	-3	3	-10	-12	0
景 況 感	-10	-15	-5	-7	-17	-7	-8	-16	-6

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売上高（前年同月比）



収益状況（前年同月比）



景況感（前年同月比）

